

SMIC

CSR REPORT 2017

千住金属工業グループ CSR報告書
ダイジェスト版



つないでいるのは、未来です。

CONTENTS

目次

-
- 1 目次
 - 2 トップメッセージ
 - 3 経営の理念
 - 4 重要課題の情報開示
SMICグループCSR基本方針

経済

-
- 6 ガバナンスと経営状態

社会

-
- 7 お客様と従業員の関わり
 - 8 調達先との関わり

環境

-
- 8 生物多様性の保全活動
 - 9 エコ・ファクトリー

-
- 10 編集方針



進化のためには改革をおそれず

SMICグループの2017年度のCSRレポートをお届けいたします。

安心安全な材料供給をめざして

千住金属工業は鉛フリーはんだM705シリーズやハロゲンフリーペーストなど、より環境負荷の低い材料の普及に努めてきました。2013年に施行された米国ドッド・フランク法にもいち早く対応し、製品への紛争鉱物フリーを実現しました。今後も継続してRMI (Responsible Minerals Initiative : 2017年10月にCFSIから改称) のルールに従い、お客様が要望されるより安心安全な材料の供給に努めます。また希少な金属材料をより有効に活用するために、グループ各社と協力して材料リサイクル率の向上に努めます。

グローバル化の第二ステージへ

イギリスのEU離脱をきっかけとする、新たなグローバル化の動きが加速しています。弊社もより一層の製品供給の安定化を図るため、2017年10月にチェコ共和国に新工場を稼働しました。また北米の製造拠点も増強を予定し、栃木・岩手・宮崎等日本国内の各事業所の生産体制も強化いたします。国内外の情勢の変化にも柔軟に対応し、より適切な製品供給を行える体制を作り上げていきます。

ダイバーシティ時代にふさわしい働きやすい会社を

新しい時代を迎えるにあたり、働きやすい会社づくりと人材育成は急務となっております。特に日本国内で課題となっている残業時間の抑制に取り組み、労働環境のさらなる改善や各種手当での充実を行います。また、以前より取り組んでおります若手社員や女性社員の活躍の場を広げる試みも拡充してまいります。

千住金属工業グループは、長きにわたりお客様と共に高品質かつ社会・環境に低負荷の製品を供給し続けてまいりました。引き続きより一層の期待に応えることにより、社会に貢献していきたいと考えております。

代表取締役社長

有用な製品を世に供給することで、 公器としての使命を果たす。

会社は社員共同の生活の源泉であり、人間完成の道場である。されば先ず第一に会社の発展がそのまま社員の幸福 — 物心両面の成長に直結することを念願する。他方、会社存立の基盤たる現代社会は、日々不断に会社が優れた有用な製品を世に供給することを期待している。我等は社員と社会のこの二つの立場における要求を調和充足しつつ、その過程を通じて人類の平和と進歩に寄与し、もって公器としての使命を果たすことを経営の理念とする。

然らば、この理念のもとに結集し、会社発展の推進力となり、自己の人生を十二分に開花結実させるための必要にして且つ十分なる条件は何か — いわく実力、いわく誠実、いわく闘魂……まことにこの三ヶ条こそあらゆる生活の場における三種の神器である。

またこの三条の満たされるところ、そこにはおのずから明るい職場、平和な職場、活気溢れる職場が築かれるであろう。この職場を原動力として、日に新たに日に新たに、また日に新たなる開拓者精神を推し進めるならば、あらゆる苦難を乗り越えて会社は成長発展を続けてゆくものと確信する。願わくば我々は共にこの理念を身につけ、活力あらしめ、そして我等が職場に平和と友愛の橋をかけ、明朗にして健康な生活の建設に邁進しようではないか。

故 佐藤千壽 名誉会長

社長在任期間	昭和35年6月～昭和53年6月
会長在任期間	昭和53年7月～平成20年5月
名誉会長在任期間	平成20年6月～平成20年10月

昭和35年6月発表

石洞美術館

石洞(せきどう)美術館は、千住金属工業株式会社本社ビル内にあり、財団法人美術工芸振興佐藤基金が運営する美術館です。

財団法人美術工芸振興佐藤基金は1979年5月に、千住金属工業株式会社や当時社長だった佐藤千壽等が出資して設立した財団法人で、美術工芸を通しての国際間の文化交流、相互理解の促進、我が国文化の向上を目指しています。

石洞美術館は、その目的の一貫として2006年4月15日に開館しました。

主な収蔵品は、世界の土器、陶磁器や仏像、青銅器、玉器ですが、美術館が所在する千住にちなんだ葛飾北斎や歌川広重などの錦絵なども収蔵しています。



重要課題の情報開示

サステナビリティ報告書の国際的ガイドラインであるGlobal Reporting Initiative (GRI)は、これまでの網羅的な情報開示から、重要課題(マテリアルな側面)に焦点を当てた情報開示を目的としてガイドラインを2013年5月にG4Iに改訂しました。

千住金属工業は、経営の誠実さを「人」を通じて、ステークホルダーとのコミュニケーションをグローバル展開している姿「らしさ」を開示するために、RBA (Responsible Business Alliance : 2017年10月にEICCから改称)の行動規範に規定されている5つの側面と、毎月実施しているCSR会議で報告のあった内容を、GRIが推奨する下記の4ステップ・フローに沿って、重要課題を特定しています。

ステップ1 重要な課題・事象の特定	Identification	ステップ3 確認	Validation
<ul style="list-style-type: none">・GRI項目の側面や重要なRBA自主監査項目・影響を及ぼす範囲の特定		<ul style="list-style-type: none">・GRI項目の側面の範囲・影響・期間の評価・経営陣による承認と開示	
ステップ2 優先付け	Prioritization	ステップ4 見直し	Review
<ul style="list-style-type: none">・ステークホルダーと会社にとっての重要性評価・月次CSR会議での定性的・定量的な評価		<ul style="list-style-type: none">・印刷物とソフトの配布と開示(日本語版・英語版・中国語版)・月次CSR会議にて意見を分析・報告し次回に活用	

SMICグループCSR基本方針

当社は「経営の理念」を基に、関係法令を遵守の上、顧客、従業員、株主、取引先、地域住民、金融機関、政府等のステークホルダーに対し、常に誠実な関係を維持することを基本方針とし、「最良の会社」を目指し次の活動を展開します。

人権・労働

1. 関係法令を遵守の上、基本的な人権を尊重し、差別的な取扱いを行わないほか、児童労働、強制労働を用いません。
2. 従業員の個性を尊重し、人種、宗教、性別、国籍、心身のハンディキャップ、年齢などの理由による差別や、暴力行為、ハラスメントなど人格を傷つける行為を認めません。
3. 従業員と適切なコミュニケーションをとり、労働環境の向上に努めます。

安全衛生

1. 労働基準法、労働安全衛生法等関係法令に基づき安全衛生活動の充実を図り、快適かつ衛生的な職場環境の形成を促進します。
2. 安全衛生管理体制を確立し、労働災害を未然に防止するために、必要な措置を安全衛生委員会等の組織により積極的に推進します。
3. 緊急時に備え、適切な準備をおこないます。
4. 従業員は法令及び会社が定める規則を遵守し労働災害防止と健康保持増進に努めます。

環境

1. 環境関連法規制を遵守すると共に、必要に応じて定める自主管理基準の達成をめざします。
又、地域との環境に関する協定等の約束事項を遵守します。
2. 事業活動の中で、特に環境に与える影響が大きい次の項目を重点テーマとして定めます。
 - 1) 省エネルギー・省資源化及び温室効果ガスの排出削減の推進
 - 2) 廃水の適切な管理および、廃棄物排出量の削減
 - 3) 特に定める化学物質使用量の低減
 - 4) 危険物の特定と、適切な取り扱い
3. 地球上の野生生物・森林・海洋などの生態系を保全し、生物の多様性を確保するために、植林など自然保護活動に努めます。
4. 地域社会とのコミュニケーションを図り、人と自然にやさしい町づくりに協力して行きます。

公正取引・倫理

1. 関係法令を遵守し、顧客・供給者に対し公正で自由な競争を行い、良識ある企業間取引を行うと共に、誠実かつ公正な企業活動を遂行します。
2. 自社及び顧客の営業秘密を適切に管理するための体制および環境を整備し、運用・維持します。
3. 会計情報を正確に記録し、不適正な会計処理、誤解を招く会計報告を行いません。
4. 輸出入業務にあたっては、輸出入関連の法令を遵守します。
5. 第三者の知的財産権を尊重し、侵害または不正使用を行いません。
6. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは関係を持ちません。
7. 贈収賄など不適切な利益を目的とした行為を禁止し、不正腐敗の防止に努めます。
8. 紛争、テロに加担する個人や団体との取引を禁止し、紛争鉱物の不使用を徹底致します。
9. 内部告発が行えるよう適切な手段を準備します。

品質・安全性

1. 関連法規制及び顧客要求を遵守し、品質や安全性に配慮した製品・サービスの供給を通して顧客満足の上を図ります。
2. 定められた品質マニュアルに従って、品質マネジメントシステムを構築し、実施し、維持するとともに、その有効性を継続的に改善します。
3. 品質方針・品質目標を定めて活動するとともに定期的にまた必要に応じてレビューし、マネジメントシステムの改善の機会(間隔、頻度、場面)についての評価も行います。
4. 品質マネジメントシステムの変更の必要性も評価し、変更が必要な場合は、経営の理念に照らして適切性を維持するためにレビューします。

情報セキュリティ

1. コンピュータ・ネットワーク上の脅威に対する適切な防御策を講じるとともに、自社及び他者に被害を与えないように管理・保護します。
2. 顧客・第三者・自社従業員の個人情報の紛失及び漏洩等を防止するために適切に管理・保護します。
3. 顧客や第三者から受領した機密情報の紛失及び漏洩等を防止するために適切に管理・保護します。
4. 良識ある社会人として、ソーシャルメディアの適切な利用に努めます。

社会貢献

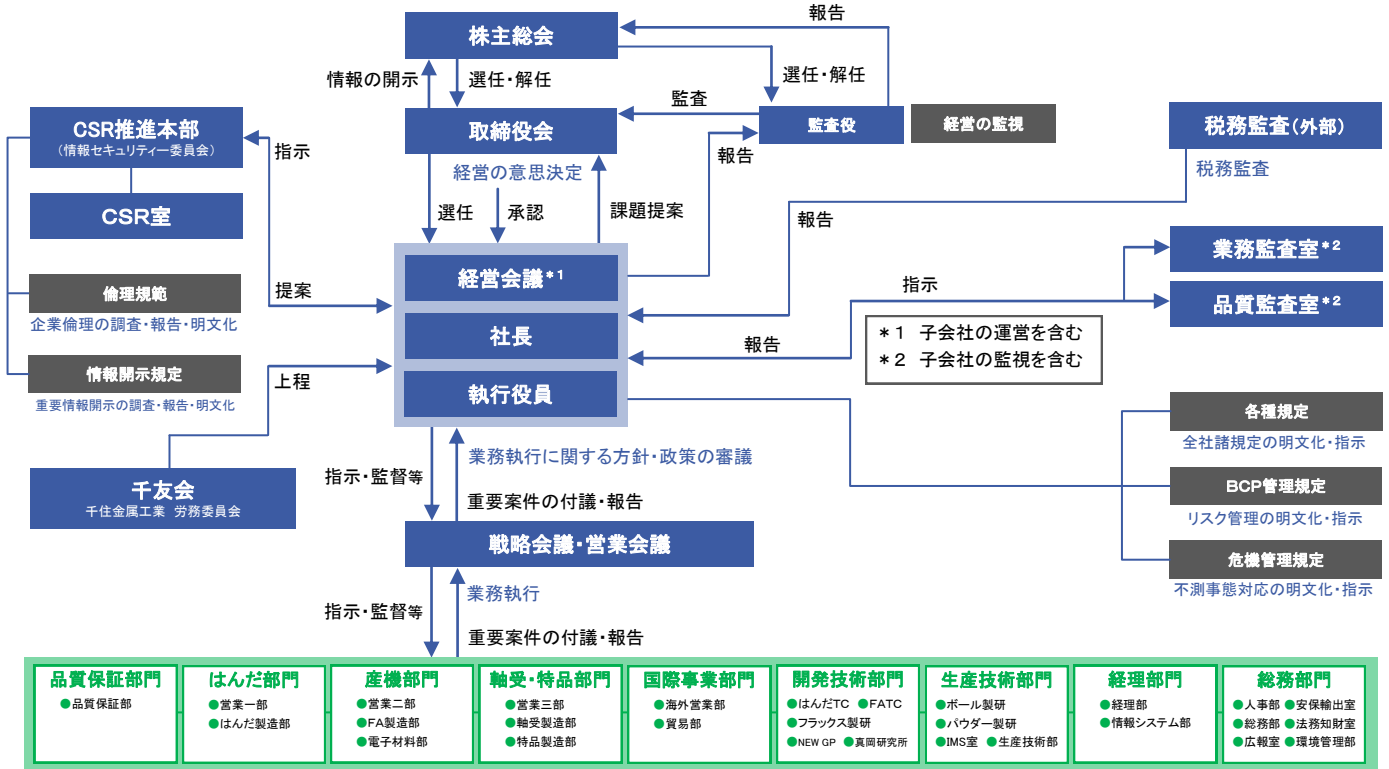
地域社会および関係業界と交流を図り、地域及び諸団体の活動に積極的に参加します。





ガバナンスと経営状態

千住金属工業は、法令にもとづく株主総会・取締役会に加え、社外監査役を含めた監査役や税務監査の配置とCSR委員会・経営会議・戦略会議の整備などにより、ガバナンスの強化に努めています。



取締役会

取締役7名と監査役2名(内、1名は社外監査役)で構成され、関係法令及び定款の定めるところに従い、千住金属工業経営管理の最高最終の意思決定機関として、執行役員との任免と経営会議からの上程の決議を行います。

監査役

2名(内、1名は社外監査役)の監査役が選任されています。取締役の職務の執行を含む日常の経営活動の監査を行っています。監査役は、取締役会と経営会議に出席し、違法または著しく不当な決議がなされることを防止する責務を果たすと共に法令に準拠した活動を行っています。

経営会議

取締役、監査役、執行役員により構成され、法定事項を審議するとともに、会社業務執行上の重要な事項を決定もしくは承認します。また、取締役会が審議決定すべき業務執行に関する事項については取締役会に上程します。

不正防止

従業員就業規則にてコンプライアンスの重要性を明文化し、従業員はこれらの諸規則を誠実に守り、会社の秩序保持に努めています。又、千住金属工業の事業活動方針《公正取引・倫理》及びCSR実践目標の《倫理》においても、腐敗を防止するために贈収賄の行為を禁じています。

経営状態

【会社概要】
 千住金属工業株式会社 (SENJU METAL INDUSTRY CO., LTD.)
 DUNS# 690663091
 本社所在地
 〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地

【事業規模(グループ連結)】
 売上高: 66,433百万円(2016年4月1日~2017年3月31日)
 資本金: 400百万円(2016年4月1日~2017年3月31日)

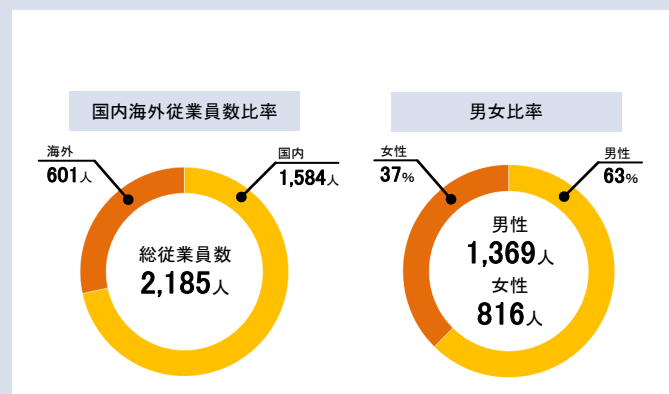
【事業展開している国と拠点】

アジア	7ヶ国	マレーシア・タイ・フィリピン・韓国・中国・香港・台湾
ヨーロッパ	3ヶ国	イギリス・ドイツ・チェコ
米州	3ヶ国	アメリカ・メキシコ・(ブラジル)

国内主要納入先: 500社 海外主要納入先: 1,500社

地域別拠点数	日本	アジア	ヨーロッパ	米州
製造拠点	8	11	2	2
営業拠点	12	14	4	5

- 【事業内容】**
- ① 金属の溶解、合金、鋳造、展伸、加工品の製造・販売
 - ② 金属の粉末及び軸受の製造・販売
 - ③ はんだ付用溶剤並びに接着剤の製造・販売
 - ④ はんだ付け装置の製造・販売
 - ⑤ 消火装置部品の製造・販売(関連会社事業)
 - ⑥ 前記に関連する機械設備の製造・販売





お客様と従業員の関わり

千住金属工業は、安心して安全な製品の開発と製造を行っております。また、製品情報の正確で迅速な提供を目的に、営業担当部門・サービス担当部門によるお客様対応の他にも展示会・イベントを通じての最新情報の発信を心掛け、Webサイトにお客様相談窓口を開設しています。

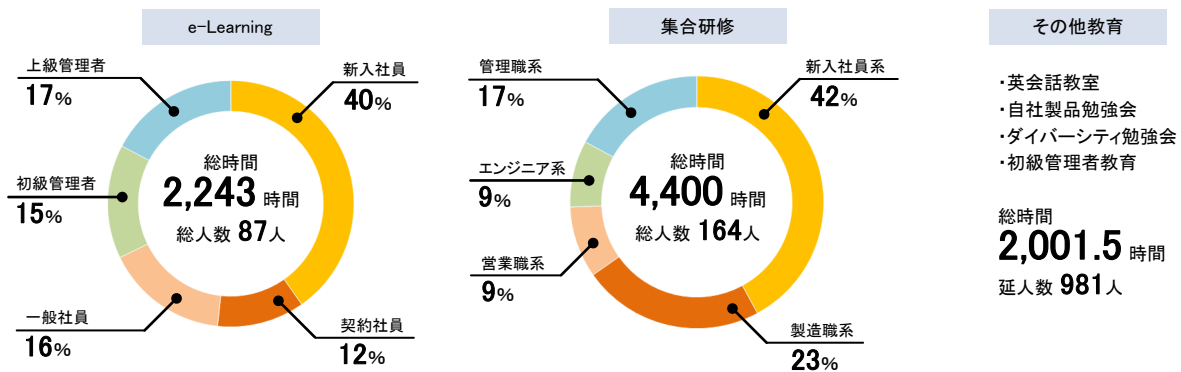
参考: 社会に対する責任

<http://www.senju-m.co.jp/csr/society/>



社員教育 - 最良の人材を育成するプログラムとして、「実力・誠実・闘魂」を身につけた人材育成を目指します -

千住金属工業の教育基本方針は、全従業員が絶えず新しい知識の修得に努め、広い視野を持って合理的な判断ができる人を養成することを目指しております。2016年度は、e-Learning・集合研修・その他教育を合わせて、延1,232名の受講者が、延8,644.5時間受講しました。製造に携わる社員は、現場での改善研修を受講し、研修で学んだことの報告会も開催しました。



寄付活動

地域貢献、芸術振興、次世代育成を目的に、千住金属工業グループでは国内外のそれぞれの拠点において、さまざまな活動に寄付などの経済的支援を57団体へ行っています。例えば、国境なき医師団などの医療福祉団体や、台湾支店では学校や子供達を支援する基金への寄付活動、震災時の義捐金寄付などを継続的に行っています。また、中国でも、天津を始め複数拠点で活動を継続しております。今後もこのような寄付活動を通じて、各地域の経済的發展だけでなく、次世代を担う若者の文化的教育や創造豊かな社会活動に貢献したいと考えています。

従業員の安全確保と確認

千住金属工業グループにおいて緊急事態が発生し災害対策本部が設置された場合、本社に災害対策統括本部を設置し、被災した事業所等の状況確認や復旧活動等がスムーズに行われるように調整、判断、指示等の必要な支援を行います。

また、緊急事態に際して被災した事業所や社外との通信手段を確保するために、主要事業所に衛生携帯電話を配置し、外出中の社員の安否確認や事業所間での緊急連絡を行えるようにしています。災害対策用品の備蓄やエレベーター内に閉じ込められた場合の対策用備品も配備しています。

なお、千住金属工業は、地震や火災から従業員の生命を守るために、消防署指示のもと定期的に避難訓練・消火訓練・救命講習を実施しています。

業務監査の結果

2016年は、CSRと安全保障輸出に関して国内の全事業所・営業所と国内子会社、及び海外3拠点の全108回の監査を実施致しました。CSR監査はRBA行動規範をベースとしたCSR基本方針・実践目標に基づき、「人権・労働」、「安全衛生」、「環境」、「公正取引・倫理」、「品質・安全性」、「情報セキュリティ」、「社会貢献」の7つのセグメントで構成され、約100項目にのぼる確認事項により、労働安全衛生などが守られた上で企業のマネジメントシステムが健全に継続して運営されているかを監査し、問題がなかったことを確認しています。

監査対象	業務監査	安全保障輸出	特定荷主
千住金属工業	39	32	10
国内子会社	20	1	3
海外子会社	3	0	0
合計	62	33	13

(単位: 監査件数)

調達先との関わり

Conflict Freeへの軌跡

2011年1月にRBA(Responsible Business Alliance、旧EICC)に加盟し、世界中で開催されるRBA総会に出席し米国市場に上場しているお客様企業と密接な関係を構築してまいりました。2014年からはRMI(Responsible Minerals Initiative、旧CFSI)会員としてもCFS(Conflict Free Smelter)紛争鉱物不使用精錬所プログラムへの参加と第三者認証取得を精錬所に積極的に働きかけ、2015年2月、取引先の精錬所が全てCFS認定されたことを報告しました。SEC最終規則へのより厳密な対応を要求される3年目以降は、引き続き全ての調達先製錬所にCFSプログラムでの認定の更新を呼びかけ、千住金属工業の棒はんだ・やに入りはんだ・プリフォーム・アノード・ペースト・ボールなどの商品の安全で安心なサプライチェーンの持続を目指します。

調達活動 - サプライチェーン・アセスメントの推進 -

千住金属工業は、購買方針として購買姿勢(取引先に対して礼儀を重んじ、公平かつ誠実な調達)と取引先との調達にあたって下記のCSR調達方針を明示しています。

また、調達取引先に求める基本姿勢としては、ISO9001・ISO14001要求事項とRBAが規定するサプライチェーン・アセスメントのガイドラインを参考に14項目をお願いしています。

国内外の取引先への監査活動は、年間計画に沿って調達部門と関連する開発と製造部門が実施しています。2016年度は、国内と海外の取引先にサプライチェーン・アセスメントにご協力いただき、問題のないことを確認しています。

調達取引先に求める基本姿勢

- ① 法令・社会規範の遵守
- ② 健全な事業経営の推進
- ③ 品質・納期・安定供給の重視
- ④ 事業継続計画(BCP)の重視
- ⑤ 環境への配慮
- ⑥ 紛争に加担しない調達
- ⑦ VE(Value Engineering)活動の重視
- ⑧ 情報提供の重視
- ⑨ 資材調達期間短縮取組の重視
- ⑩ 機密の厳守
- ⑪ IT活用推進の重視
- ⑫ 情報セキュリティ
- ⑬ 反社会的勢力の排除
- ⑭ 社会貢献

CSR調達方針

- ① 千住金属工業株式会社 「品質・安全性方針」
- ② 千住金属工業株式会社 「環境方針」
- ③ 千住金属工業株式会社 「当社の購買方針」
- ④ 千住金属工業株式会社 「調達取引先に求める基本姿勢」
- ⑤ 納入品に対して配慮戴きたいISO/TS16949の要求事項
- ⑥ 納入品に対して配慮戴きたい環境管理上の要望事項



生物多様性の保全活動

1992年のリオデジャネイロ・サミットでは、地球温暖化防止と生物多様性保全が条約として採択されました。千住金属工業グループは、地球上の生態系バランスを維持する上で必須の課題と考え、CSR実践目標の一つに掲げ、地域で継続している生物多様性の保全活動に参加しています。2016年度は合計160名の社員とその家族が参加しました。

千住電子工業

- ・砂鉄川一斉清掃 (2016年4月16日実施)

千住スプリンクラー

- ・砂鉄川一斉清掃 (2016年4月16日実施)
- ・森は海の恋人 (2016年6月5日実施)

千住システムテクノロジー

- ・全国植樹祭プレ大会 (2016年5月22日実施)

千住技研

- ・第18回 石崎浜ビーチクリーン (2016年5月21日実施)
- ・第19回 石崎浜ビーチクリーン (2016年8月6日実施)
- ・第20回 石崎浜ビーチクリーン (2016年11月26日実施)

千住マレーシア

- ・マングローブ植林 (2016年10月22日実施)



エコ・ファクトリー

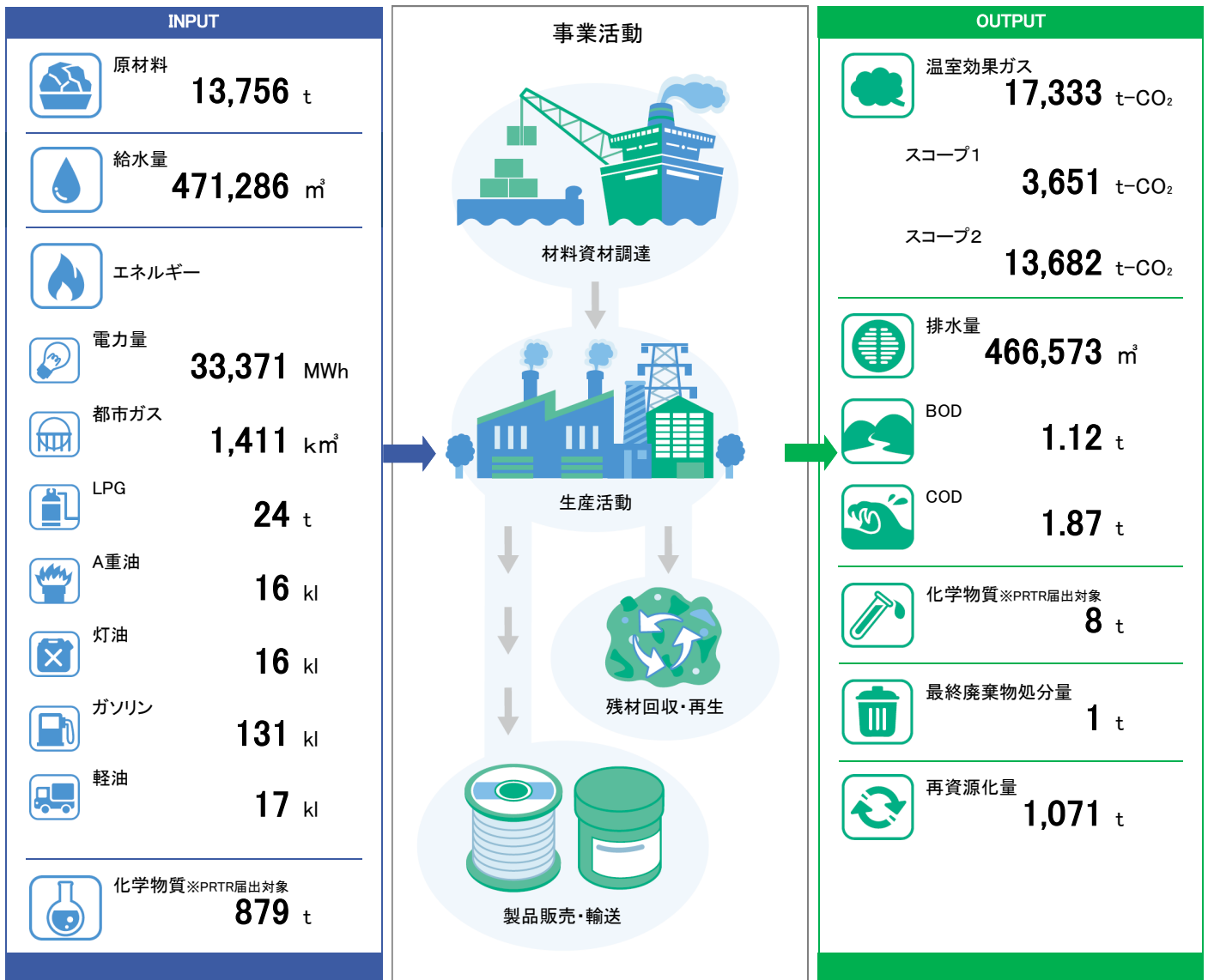
千住金属工業グループは、製品の開発・製造だけではなく、グループ各生産拠点での各種環境対応設備の導入や廃棄物の削減や再利用を推進し、環境に配慮した生産活動を行う企業です。

当社のエコ・ファクトリーとは？
法規制順守と環境汚染リスクの低減に加えて、省エネルギーや3R(廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化)活動を実践している工場を示します。

地球温暖化防止 - 2016年度の事業活動における環境への排出量 -

事業活動に伴う環境負荷を定量的に監視、計測を行う事で、使用したエネルギー量と排出量などのINPUTとOUTPUT情報を把握し、省エネルギー化、廃棄物の発生抑制や再利用、再資源化、特に定める化学物質使用量の削減などの環境改善活動を実施しています。

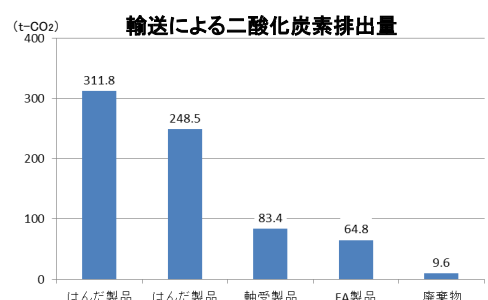
2016年度の国内全拠点の目標値2011年比 -2%に対して、GHG(温室効果ガス)総排出量17,333トン(2011年比 -7.3%)を達成しました。



国内全拠点の大半を占める栃木事業所のインプット・アウトプット図

輸送による二酸化炭素の排出量

2016年の物流の排出量は、国内の貨物の委託輸送量を製品のカテゴリー別に輸送区間と距離から年間輸送量を算出し、スコープ3で要求されている項目のモニタリングを行っています。また、従業員の通勤に関する二酸化炭素排出量についてもモニタリングを行っています。



編集方針

千住金属工業グループの重要課題と社会的要請の高い項目について報告するよう努め、マテリアリティを特定しています。本報告書はGRI G4による標準開示項目の情報が記載されています。また、「社会」「環境」「経済」の3つの“誠実さ”に沿って報告し、事業を通じての社会問題の解決に取り組んだ結果を事例として報告します。

千住金属工業グループのCSR情報 <http://www.senju-m.co.jp/csr/>



対象期間	2016年 4月 1日～ 2017年 3月 31日(一部2017年 3月以降の情報も含まれます)
対象範囲	グループ会社 27社(非連結子会社と関連会社を含む)。ただし、環境活動は別途明記
対象変動	連結子会社の増加・減少はなし
加入団体	RBA・日本溶接協会・エレクトロニクス実装学会・JEITA・JAPIA・東京経営者協会・商工会議所
発行履歴	今回:2017年 10月(前回:2016年 10月)
次回発行予定	2018年 10月(2017-2018年版としてCSRレポートを発行予定)
参考ガイドライン	GRI G4ガイドライン・環境報告ガイドライン・ISO26000 * GRIガイドライン対照表は弊社CSR WEBサイトに掲載予定です。

免責事項

本報告書には、千住金属工業の将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれていますが、これらの記述は、現時点で把握可能な情報から判断した事項及び所信に基づく見込みです。千住金属工業およびその関連会社は、本報告書に含まれる情報もしくは内容を利用することで直接・間接的に生じた損失に関し、いかなる責任を負わないことをご承知ください。また、本報告書は、参考のために日本語の原文を英語に訳した報告書も用意しています。日本語版と英語版に相違がある場合は、日本語版を正しいとみなし、翻訳による差異から生じたいかなる損害についても責任を負わないことをご承知ください。

SMIC

千住金属工業株式会社

〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23番地

TEL.03(3888)5151(代) FAX.03(3870)3032

<http://www.senju-m.co.jp/>

© 2017 Senju Metal Industry Co., Ltd. All rights reserved.